サンケイ 07 6/8

「62年ぶり兄に会え涙」

李登輝氏、靖国神社を参拝

来日中の台湾の李登輝前総統は7日午前10時すぎ、亡兄の李登欽氏が「岩里武則」の日本名で合祀される靖国神社を初参拝した。クリスチャンである李登輝氏は、政治や歴史を切り離し、戦死した兄を持つ私人として、実兄の英霊に一礼した。

李氏は到着殿から曾文恵夫人らを伴って入り、遺族として本殿で「昇殿参拝」した。同行した作家の曽野綾子さんによると、李氏は靖国側の指示に従い、おはらいを受けた後に本殿で一礼した。

参拝には、日本側から曽野さんのほか夫の三浦朱門さんらが同行。台湾側からは台湾独立建国連盟の黄昭堂主席らが付き添った。

李氏は参拝後、「62年ぶりに兄に会えて、涙が出ます。温かい気持ちになりました」と語り、神社側から進呈された落雁は「台湾に持ち帰り、亡父の遺灰の前にささげたい」と話した。李氏は参拝前の記者会見で、「うちには遺灰もなければ遺髪も残されていません」といって言葉を詰まらせ、夫人とともに涙を浮かべていた。

李氏はこの後、2000年12月に名誉博士号を授与された東京都文京区にある拓殖大学を訪問し、夕刻からは都内のホテルで「2007年とその後の世界情勢」をテーマに講演。増大する中国の影響力を学術的見地から分析し、東アジアにおける日本の指導力に強い期待感を表明した。

7日午前、亡兄が合祀されている東京・九段の靖国神社到着殿に着いた李登輝前台湾総統（中央）

「個人の行動」

塩崎官房長官

塩崎恭久官房長官は7日の記者会見で、台湾の李登輝前総統が靖国神社を参拝したことについて「個人の行動なので、政府として特にコメントすることはない」と述べた。また、「（李氏の参拝が）日中関係に影響を与えることはあってはならないし、おそらくないのではないか」と述べ、主要国首脳会議（ハイリゲンダム・サミット）に合わせ調整中の日中首脳会談への影響もないとの見解を示した。

一方、民主党の菅直人代表代行も記者会見で「個人的な形の行動ということなので、コメントすることは控えたい」と述べた。